

【介護から自分を知る③】



2 介護の現状①

高齢者世帯で一人が病院に入院した時、生活の変化がどう生ずるのかを考えて見たいと思います。

悩みが伴うことが多いのは骨折関係と認知症だと思います。何かのはずみで骨折することが予想され、その理由で病院へ入院することになると、若い時と異なって治癒する時間が長くなってしまいます。その治癒のためにリハビリが特に大切になってきています。また、入院中の状況によっては、体全体の筋肉等の低下を招くことも予想されています。

入院するとなれば生活のリズムが大きく変わってきますし、その対応をするにあたっての環境によっても変わってきます。1ヶ月以内の入院で、その後の生活にもあまり変化が伴わなければ良いですが、そのようなことはなかなか期待できないようです。日常の生活習慣、生活リズムが二人にとって適切で、健康維持ができるような状態であれば問題が少なくすむようです。

入院生活を考えれば、当事者以外の生活リズムは当然変化します。時間・金銭が大きく変化し、今までの生活水準が保てるかも心配になります。また、将来の心配も生じることが予想されますし、悩みの種にもなります。

当事者も病院での生活の中で、いろいろなことを考えてしまうことが予想されますし、マイナス思考に陥り易い状況でもありますから、冷静にものごとを判断する力を持つように努めることが大切になってきます。

「ありがとう」と「感謝の気持ち」を強くもつことができれば、何ごとも前に進んでいきますので大切にしたいです。

当事者は、医師、看護師などの指示を守ることは当然ですが、疾病の状況、治癒に向かったの計画、その進行状況については、二人が納得できるように会話することも大切です。また、以前考えていたことの修正が必要になりますが、その準備があれば多少なりとも落ち着くことができると思いますので、健康な時にいろんな会話をし、心の準備と、ものごとの準備があれば良いと思います。

健康な時は、時間があるはずなのですが、不慮の予測はあまりしたくないと思いますが、これも現実には発生することですから、そのことを二人で充分会話することが必然です。また、いろいろなことが予想される現代ですから、その対応に向けたことを、ある程度納得できるように会話することも大切です。